



ANNUAL REPORT 2019

業務のご案内
ミニディスクロージャー誌



和布刈公園から望む門司港



若戸大橋と若松南海岸通り



あなたと共に、ハーモニー・バンク
福岡ひびき信用金庫

当金庫の概要

(平成31年3月31日現在)

設 立	大正13年1月
本店所在地	北九州市八幡東区尾倉2-8-1
出 資 金	34億46百万円
会 員 数	73,080人
役 職 員 数	605人
店 舗 数	46店舗 (代理店1店舗を含む)
営 業 区 域	福岡県一円 山口県下関市 大分県中津市



経営理念

1. 地域社会の繁栄ある未来を希い、地域とともに歩みます。(地域繁栄、金庫共栄)
2. 健全経営と独自性発揮で、お取引先の要請に応えます。(健全経営、独自性発揮)
3. 知性を磨き、創意と工夫をもって活力ある信用金庫を築きます。(知性と創意で活力金庫)

基本方針

1. 地域の人々の幸福と繁栄を希い、地域の豊かな未来づくりを使命とします。
2. 健全経営をモットーに、お客様のニーズに素早く対応し信頼される金庫にします。
3. 日々、豊かな人間性の向上に努め、活力ある職場と職員の豊かな生活の実現に努めます。



C O N T E N T S

地域社会とひびしん	2
業績トピックス	3
地域活性化に対する取組み	5
店舗のご案内	8
事業の概況等	9

地域社会とひびしん

当金庫は、福岡県一円と山口県下関市、大分県中津市を事業区域として、地元の中小企業や住民の皆さまが会員となっており、お互いに助け合い、お互いに発展していくことを共通の理念として運営されている相互扶助型の金融機関です。

地元の皆さまからお預りした大切な資金(預金積金)は、地元で資金を必要とするお客様に融資を行って、事業や生活の繁栄のお手伝いをするとともに、地域社会の一員として地元の中小企業や住民の皆さまとの強いネットワークを形成し、地域経済の持続的発展に努めております。また、金融機能の提供にとどまらず、企業としての社会的責任(CSR)を自覚し、文化・環境・教育といった面も視野に入れ、広く地域社会の活性化に積極的に取り組んでおります。



■有価証券 2,752億円
お預りしている資金の一部は、有価証券等で運用しております。運用にあたっては、公共債等を中心に安全な運用に努めております。

平成31年3月31日現在

業績トピックス

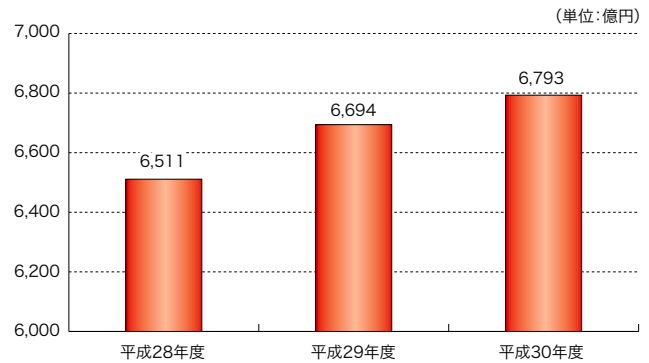
預金積金の推移

平成30年度は、夏期・冬期のキャンペーンとして、懸賞金付定期預金「マネーヒット」を販売しました。夏期・冬期合計で220億円を獲得しましたが、相続等の影響もあり、定期性預金は2億円の減少となりました。

一方で、要求性預金は前期比で102億円の増加となりました。

その結果、平成30年度の預金積金残高は前年比99億円増加し、6,793億円となりました。

預金積金残高 **6,793**億円



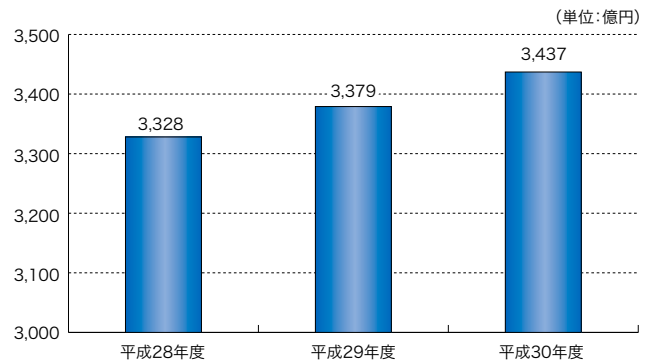
貸出金の推移

平成30年度は、引き続き事業性融資と消費者ローンの拡大を重点施策に掲げ推進してまいりました。

その結果、事業性融資は新規取引先の拡大により26億円増加し、個人向け融資も、消費者ローンを中心に伸び、19億円の増加となりました。

その結果、貸出金残高は前期比58億円増加の3,437億円となりました。

貸出金残高 **3,437**億円



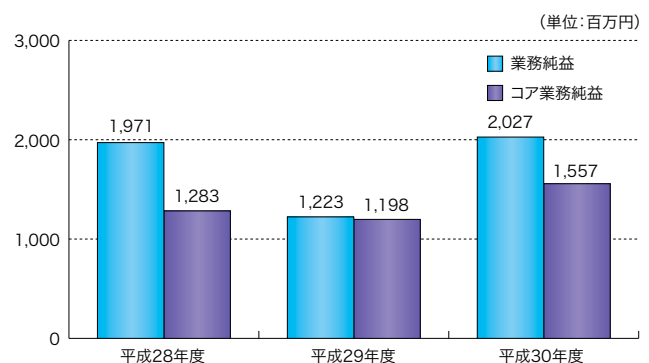
業務純益*1/コア業務純益*2の推移

資金運用収益の増加や資金調達費用・一般貸倒引当金繰入額の減少等により業務純益は803百万円増加し、2,027百万円となりました。

また、業務純益から一般貸倒引当金繰入額や国債等債券関係損益を除いたコア業務純益については、前年比359百万円増加の1,557百万円となりました。

業務純益 **2,027**百万円

コア業務純益 **1,557**百万円



*1 業務純益・・・貸出金や有価証券等の受入利息や手数料などの収入から、預金等の支払利息や支払手数料、経費を差し引いたものです。

*2 コア業務純益・・・業務純益から、一般貸倒引当金および国債等債券関係損益を除いたものです。

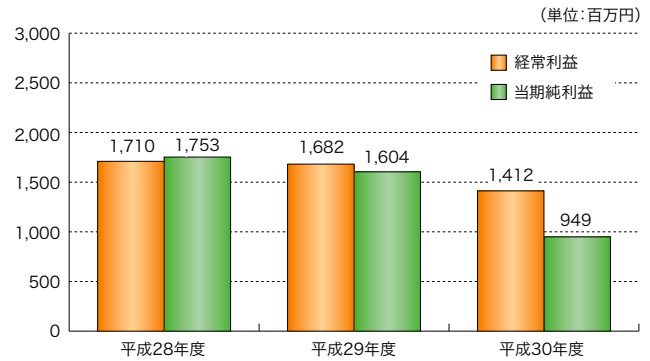
経常利益/当期純利益の推移

臨時収益が増加した一方、株式等売却損の増加等により臨時費用も増加となったため、平成30年度の経常利益は前年比269百万円減少し、1,412百万円となりました。

この結果、当期純利益は前年比655百万円減少の949百万円となりました。

経常利益 1,412百万円

当期純利益 949百万円



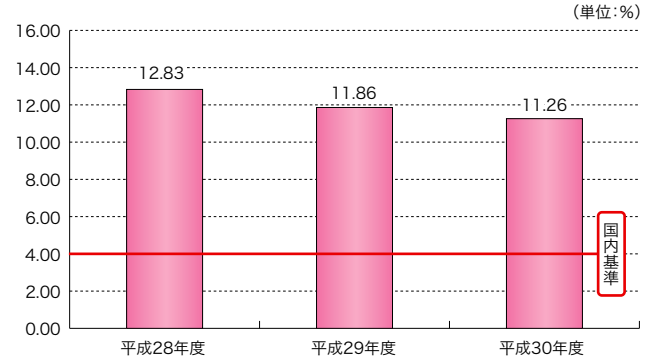
単体自己資本比率

当金庫の平成30年度の単体自己資本比率は11.26%となりました。

国内基準(4%)を大幅に上回る高い水準を維持しております。

※平成25年度末より、自己資本比率規制に関する金融庁告示第19号の一部改正に伴い、パーゼルⅢ基準により自己資本比率を算出しております。

自己資本比率 11.26%



不良債権比率

平成30年度の金融再生法に基づく不良債権額は、前年比5億58百万円減少し122億95百万円となりました。

この結果、当金庫の不良債権比率は前年比0.23ポイント低下し、3.56%となりました。

当金庫は、法令等に基づき厳格な償却・引当を行っております。引き続き、健全な資産の維持に努めてまいります。

不良債権比率 3.56%

